第 74 回日本職業・災害学会学術大会

開催趣意書および協賛のお願い

会期：2026 年 12 月 3 日（木）～ 5 日（土）
会場：仙台国際センター展示棟
会長：伊藤　弘人
（東北医科薬科大学 医学部 医療管理学教室 教授）

Version 7.1
（随時プログラムを改定予定）

関係各位

第74回日本職業・災害医学会学術大会　学術大会長　伊藤弘人
東北医科薬科大学 医学部 医療管理学教室 教授
（大学院医学研究科 社会地域医学領域 地域医療管理学分野）

第 74 回日本職業・災害医学会 学術大会 趣意書（第 1 報）

謹啓 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第74回日本職業・災害医学会学術大会長を拝命し、大会を2026年12月2日（木）～5日（土）に、仙台国際センター（仙台市）において開催いたします。本大会のメインテーマは、**「地域の未来は決定づけられているものではない」**です。本学会の企画へのご参画のご検討をお願い申し上げる次第です。

日本職業・災害医学会は、仙台市生まれで東京大学外科学第一講座教授や虎の門病院初代院長を歴任された大槻菊男先生が1953年（昭和28年）に「災害医学会」を結成されたことに始まります。学会員の主要な構成員は設立初期から全国の労災病院の医師・医療関係者です。1996年に災害医学会が独立開催されたことに伴い、1999年に学会名を「日本職業・災害医学会」と改称して現在に至ります。第25回大会（1977年）から労災病院院長と大学教員等が交互に大会長を担い、労災病院や産業保健センター・地域産業保健センター・行政の関係者および研究者が集う学術大会として毎年約700名が参加する学会となっています。東北での開催は10年ぶり7回目となります。

歴史のある本学会の大会長を拝命し、重責に身の引き締まる思いで鋭意準備を進めております。私は、2017年から2022年までの約5年間、労災病院を有する労働者健康安全機構に勤務し、働き方改革法の成立まで「過労死等防止調査研究センター長」を、法律成立後は本部研究ディレクターを務めました。当時からの研究テーマは、**「災害に強い地域づくり」**および**「地域経済」**に寄与する医療のあり方です。2022年度に現ポストに着任した後も、この2つのテーマを深めて研究成果を蓄積して参り、一定のメッセージをお伝えできる段階になりました。

第74回大会長を拝命することになり、上記の経緯から、従来のプログラムに加え、4つの観点から「第74回大会特別企画」を組み込みます。すなわち、①地域医療と歴史、②地域医療の新しい仕組みとテクノロジー、③災害への備えと医療、および④地域経済と医療です。従来のプログラムと大会特別企画にご参加いただくことで、「地域の未来は決定づけられているものではない」ことをご実感いただき、次のステップの手がかりを得られることを目指します。

本趣旨をご理解いただきここに積極的なご参画をお願い申し上げる次第です。前向きにご検討を賜りたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

謹白

学会の開催概要

1. テーマ：地域の未来は決定づけられているものではない
2. 会　期：2026 年 12 月 3 日（木）～5 日（土）
3. 会　場：仙台国際センター展示棟（宮城県仙台市）
4. プログラム骨子（予定）：ホームページで公開・随時改定中
   ① 大会企画：地域医療と歴史、地域医療の新しい仕組みと
   テクノロジー、災害への備えと医療、地域経済と医療
   ② 労働安全衛生研究報告・労災疾病等医学研究報告・両立支援報告
   ③ 一般演題　ほか

https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/index.html

5. 学会参加登録：医師 12,000 円（事前登録 10,000 円）　学生 1,000 円
   その他の方6,000円（事前登録5,000円、臨床研修医を含む）
   ※事前登録期間：2026年6月5日（金）～12月2日（水）
6. 参加者（予定）：医師を中心とした医療関係者や産業保健関係者（約 700 名）・市民（約 300 名）
7. 一般演題申込：演題申込期間：2026 年 4 月 1 日（水）～6 月 30 日（火）すべてオンライン登録

第 74 回大会特別企画の具体的な内容案（時間は現段階での予定）

【オープニング：国内外の先駆的取り組みからの示唆（大会長講演にかえて）】

【ねらい】メインテーマを実現するにあたり示唆深い国内外の事例紹介　12 月 3 日（木）9:00～11:00

1) Session 1. What role does a public hospital play in the community?
Hong Choon Chua, MD. シンガポール国立病院院長
(Chief Executive Officer of Khoo Teck Puat Hospital & Yishun Health, Singapore)
病院の気候変動対策、地域住民との対話、医療事故対策、他（デジタル化を含む）
事前収録ビデオ登壇
高垣有作：国保すさみ病院名誉院長、第65回全国国保地域医療学会学会長、第13回赤ひげ大賞受賞者
病院の高台移転（津波対策）、人口減少への備え、往診・在宅医療への工夫

2) Session 2. 地域経済循環構造の改善に寄与する医療とは？
長野敏宏（公益財団法人正光会御荘診療所長）
地域循環型就労支援から地域ブランド構築へ：愛南町での精神科医療の先駆的取り組み

3) フリートーク①：近未来の「あたりまえ」は亜周辺から始まる
小池司朗（社会保障・人口問題研究所）
人口動態から考える非東京圏のこれからの可能性（将来予測モデル：仮題）
小茄子川歩（京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科）
「亜周辺」における社会進化：バッファ・都市・文明・国家（仮題）

4) フリートーク②：障害者就労の新たな展開：病気・障害を持っての「近未来の働き方」
おはむさん（OriHime パイロット）
オリヒメパイロットの挑戦：心臓移植を受けた後に始めた遠隔による仕事について（仮題）
依田晶男（サイト管理者、全国土木建築国民健康保険組合専務理事）
障害のある先輩医師からのメッセージ：夢をつなぐ Doctor's Network について（仮題）

5) ワークショップ①：倫理コンサルテーション入門～4分割表を使ってみる～ ***【選択講習：医療倫理】***
【ワークショップ企画参照】

6) 【ブース展示：東北新幹線沿線・医学関連博物館・記念館めぐり】（追加展示を調整中）
一関市博物館（建部清庵・大槻玄沢）－後藤新平記念館－高野長英記念館―安藤昌益資料館

【Ⅰ．地域医療と歴史】

【ねらい】変化する社会で地域医療を担う医師は、地域医療の経験から育んだ哲学的思考と実臨床から練り上げたソーシャル･イノベーションで、先駆的な取り組みを続けてきました。足跡を振り返ります。

7) 医師 本居宣長の考える地域医療　12 月 3 日（木）15:15～15:55

西山杏奈先生（本居宣長記念館）

源氏物語や古事記を研究し「もののあわれ」を示した国学者である本居宣長は、日中は往診で生計をたてていた松阪（三重県）の医師でした。臨床経験と思想の形成との関係をご紹介いただきます。

8) 当院に併設され後藤新平も学んだ須賀川医学校について（仮題）　12 月 3 日（木）15:55～16:25

土屋貴男（公立岩瀬病院院長、福島県）

明治5年創立。翌年に須賀川医学校が併設され、後藤新平をはじめ、全国から医療を志すものが学びました。1882年、板垣退助が暴漢に襲われた事件で板垣を診察した後藤新平の診断書も供覧予定です。

9) 後藤新平の検疫事業から考える医療マネジメント戦略（仮題）　12 月 3 日（木）16:25～16:55

第 65 回日本医療・病院管理学会学術総会プレ企画

山内一信（東員病院 認知症疾患医療センター院長、名古屋大学・藤田医科大学名誉教授、東海病院管理学研究会会長、日本医療・病院管理学会 名誉会員）

【抄録】後藤新平は西南戦争負傷兵の治療にも参加した後、海外での戦争からの帰還兵 23 万人の検疫を成功させた。今後起こるかもしれない新興・再興感染症などに対しても、新たな示唆を与えると思われる。

10)【市民公開講座】歴史学・考古学者の考える医師修行と働き方改革 12 月 4 日（金）15:00～16:30

◎江戸時代の医師修業と大槻玄沢　海原亮（住友史料館）

◎奈良時代の働きすぎ：木簡の記録から　馬場基（奈良文化財研究所）

「江戸時代の医師修業（吉川弘文堂）」の著者である海原先生、話をいただきます。出土した奈良時代の長時間労働記録の木簡をはじめ当時の勤労者の生活に詳しい馬場先生からご講演いただきます。

【Ⅱ．地域医療の新しい仕組みとテクノロジー】

【ねらい】新たな地域医療構想の検討が始まり、医師偏在の是正に向けた総合的な対策パッケージの実装も進められています。人口減少と医師偏在という社会課題にいち早く直面している東北での先駆的な取り組みを共有し、今後都市部で深刻化するテーマへの手がかりとして議論します。

11) セッション：北日本地域医療連携推進法人（企画中）　12 月 3 日（木）13:00～14:30

丹野弘晃（上十三まるごとネット：上十三地域医療圏、十和田市立中央病院で事業管理者）

吉原秀一（北鹿ヘルスケアネット：大舘市、大館市病院事業管理者）

和泉 裕一（上川北部医療連携推進機構：上川北部二次医療圏、名寄市病院事業事業管理者）

後藤忠雄（複数診療所をネットワーク化した県北西部地域医療ネット：代表理事、県北西部地域医療センターセンター長）

12) 教育講演：メール相談における AI 活用の可能性　12 月 4 日（金）9:00～9:20

山本晴義（横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長）

13) セッション：地域医療のための医師の養成と定着の取り組み　12月4日（金）9:30～11:30

座長：中野徹（東北医科薬科大学の修学資金医師支援センター長）

基調講演１：東北医科薬科大学医学部の歩み：設置から10年を迎えて

柴田近（東北医科薬科大学学長、前医学部長）

基調講演２：自治医科大学の歩み：設置から54年を迎えて

小谷和彦（自治医科大学教授、地域枠医師等キャリアデザイン機構代表理事）

指定発言：都道府県におけるキャリアコーディネータ制度の概要

橋田知明（東千葉メディカルセンター救命救急センター長、千葉県キャリアコーディネータ）

14) シンポジウム：働き方改革時代の学術力を守る：生成 AI で “書く・まとめる・伝える” を加速する
12 月 4 日（金）9:30〜11:30

基調講演：生成 AI 活用の総論・安全性・研究的裏付け・限界と作法
松井健太郎（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター睡眠障害センター長）

講演１：AI 導入のはじめの一歩（ステップ１）
井上聖（日本赤十字社 熊本赤十字病院 集中治療科）
講演２：文献検索・ガイドライン整理・教育コンテンツ作成における生成 AI 活用（ステップ２）
浅沼翼（株式会社麻生 飯塚病院 感染症科）
講演３：資源の限られた地域・中小病院・在宅医療現場での生成 AI 実装（ステップ３）
西村涼（道北勤労者医療協会 道北勤医協―条通病院内科・総合診療科ノ在宅医療部部門長）
講演４：若手医師・研修医視点の生成 AI と技術実装の具体例（ステップ４）
三宅冬人（竹田健康財団 竹田総合病院 内科）

15) ランチョンセミナー：広島総合診療医養成プロジェクトと ORIZURU（遠隔診療支援システム）
講師：東條環樹（広島大学病院総合診療医センターセンター長／北広島町雄鹿原診療所所長）
共催：株式会社ファインデックス　12 月 3 日（木）11:30〜12:30（予定）

16) 企画中

【Ⅲ．災害への備えと地域医療】

【ねらい】大規模地震の予知と風水害の激甚化に直面し、災害への備えは地域住民の医療を担う病院にとって大きな課題です。「病院を強くする」という観点に加えて、「災害に強い地域づくりに寄与する医療」という新しい取り組みを、ご一緒させて参りました組織と企画します。また貞観地震（869 年）および東日本大震災（2011 年）の震災遺構への見学を含むエクスカーションを企画します。

17) 【市民公開講座】こんなことで死にたくなかった一法医学者が知っている高齢者の「意外な死因」と予防策　高木徹也（東北医科薬科大学医学部法医学教室教授）　12 月 4 日（金）12:40〜13:10

18) 【市民公開講座】ヘルスケア BCP コンソーシアム共催　12 月 4 日（金）13:15〜14:45
テーマ：地域ヘルスケアレジリエンス確保における医療の貢献
企画・司会：有賀徹（コンソーシアム代表理事、労働者健康安全機構顧問
日本病院会救急・災害医療対策委員会委員長、元日本救急医学会代表理事[東日本大震災当時]）
演者：伊藤弘人（HBC理事、第74回日本職業・災害医学会学術大会会長）
災害時地域ヘルスケアレジリエンス体制確保における地区防災計画の役割
磯打千雅子（香川大学特任準教授）【収録ビデオ供覧】
介護等多様な連携による地域ヘルスケアレジリエンスの向上
高垣有作（国保すさみ病院名誉院長）
地域予防医療推進による地域ヘルスケアレジリエンスの向上
仲澤妙美（独立行政法人労働者健康安全機構和歌山労災病院院長補佐）
感染症パンデミックにおける地域ヘルスケアレジリエンスを強化した当院の取り組み
野口英一（ヘルスケアBCPコンソーシアム理事）
超高齢社会における医療支援とその方法

【選択講習：大規模災害対策】

19) 【学会関係者限定】災害への備えと医療―国連の災害対策　12 月 4 日（金）10:00〜11:30
栗山進一（東北大学 災害科学国際研究所所長）：災害科学国際研究所と地域医療（仮題）
松岡由季（UNDRR 駐日代表）：国連防災機関（UNDRR）と防災活動（仮題）：予定
UNDRR: United Nations Disaster Risk Reduction（本部：ジュネーブ 2000 年発足）
目的：持続可能な開発に不可欠な要素としての防災の重要性を高め、災害による被害・損失減少、災害リスク軽減を目指し、災害に強い国やコミュニティを構築

20) ***【指導医講習会／感染管理（可能？）】*** リベリアにおけるエボラ対策の経験（2014～2015）から考える感染症危機管理（仮）
吉川徹（労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所　研究推進・国際センター）
12 月 3 日（木）13:00～14:00

【選択講習：大規模災害対策】
21) 行政要請に基づく病院間災害連携支援の試み：川崎市災害時病院連携訓練における当院の役割
飯田晋司（関東労災病院）

22) エクスカーション（※：途中での乗車・下車可能）
仙台駅東口発（8:15）→東松島市震災復興伝承館→東松島市保健センター→松島にて昼食・自由散策（※下車可能）→松島発（14:15※乗車可能）→震災後の復興住宅エリアを車窓見学→末の松山（百人一首等で詠まれた歌枕）→多賀城駅（※下車可能）→国府多賀城駅（※下車可能）→仙台駅着16:00
*大槻俊才（1806～1862）：神田お玉ケ池私設種痘所開設（東京大学医学部初代医学部長）

【Ⅳ．地域経済と医療】

【ねらい】労災病院は、もともと炭鉱や地域の地場産業に従事する労働者の医療を担うために設置されました。しかし産業構造が変化し、当初の趣旨が変化・消滅しており、労災病院の新たな地域での役割を模索しています。地域における「勤労者医療」、さらに一般化すれば「地域経済と医療」の在り方の検討であり、どの地域の医療機関においても共通のテーマです。労働者健康安全機構本部勤務時代から研究テーマであり、これまでの研究成果をベースに、「地域経済と医療」のこれからの在り方を考えます。

23) 両立支援報告　12 月 3 日（木）15:30～17:00
【日本医師会認定産業医研修】【社会医学系専門医制度（職場環境衛生）K 単位】
座長：磯尾直之　（労働者健康安全機構　理事）
中岡隆志　（労働者健康安全機構　総括研究ディレクター）
演者
大嶋　彩　（東北労災病院治療就労両立支援センター）
香月　淳　（関西労災病院治療就労両立支援センター）
松村　敏幸　（熊本労災病院）
小川　浩平　（旭労災病院）
指定発言
豊田　章宏　（中国労災病院治療就労両立支援センター）

24) 地域医療を担う病院に関する地方財政と地域経済・経営学 ：経済地理学会ジョイント企画
12 月 4 日（金）9:00～11:30
企画・司会：千葉昭彦、庄子元（経済地理学会北東支部 [北海道・東北]）
演者：中澤高志（明治大学経営学部）：経済地理学からみた地域生活圏と地域医療
加藤幸治（国士舘大学文学部史学地理学科）：医療機関からの距離に関する自治体分析
尾形倫明（東北医科薬科大学医学部医療管理学）：地域経済循環構造と地域医療
楠茂樹（筑波大学）：国公立病院における公共調達・競争政策と地域性の重視
～地域経済へ貢献・寄与のあり方をめぐって～
中野幹久（京都産業大学経営学部）：
サプライチェーン経営学の視点からの医療領域への示唆
共催・後援：経済地理学会東北支部（共催）、地理学連携機構（後援）
【2026年6月～7月にプレ・セッション（オンライン）を企画中】

【選択講習：職場環境衛生】

25) 事業所支援における産業保健と保健事業　　12 月 4 日（金）13:15～14:45
司会：金子善博（労働者健康安全機構）、依田晶男（全国土木建築国民健康保険組合）
労働者健康安全機構における取り組み：金子善博（労働者健康安全機構本部研究ディレクター）
産業保健センター等での取り組み（案）：木村裕香子（宮城産業保健総合支援センター）
全国土木建築国民健康保険組合の取り組み：依田晶男（全国土木建築国民健康保険組合）
健康支援室による具体的な支援（案）：荒川瑠美（全国土木健康保険組合仙台健康支援室）

26) ワークショップ③：健康寿命の延伸に向けた「攻めの予防医療」の推進
【「ワークショップ企画」参照】

27) ランチョンセミナー：睡眠障害治療と標榜に関する最新状況（仮）　12 月 4 日（金）11:30～12:30（予定）
内村直尚（久留米大学理事長・学長、日本睡眠学会代表理事）
共催：エーザイ株式会社　エーザイ・ジャパン

28) 企画中

【教育企画・ジョイント企画】

【ねらい】第 74 回大会に関連するジョイント企画を、関係組織と準備しています。新しい領域や情報に接する機会にしていただけますと幸いです。

29)【教育企画①】次世代を担う看護管理者の育成　　12 月 3 日（木）14:15～15:15
企画・司会：仲澤妙美（独立行政法人労働者健康安全機構和歌山労災病院院長補佐）
講演１：冨吉明美（中国労災病院看護部長）
講演２：大林幸恵（山陰労災病院看護部長）
講演３：田代純子（大阪労災看護専門学校副校長、前山口労災病院看護部長）
講演４：南里佳代子（和歌山労災病院看護部長）

30)【教育企画②】間欠導尿（介助導尿・自己導尿）の質の向上を目指して
【選択講習：医療安全または事故予防・事故対策（可能か？）】
座長：白瀧 敬 先生／山口労災病院　泌尿器科　部長
演者１： 内山 啓子 先生／訪問看護リハビリステーション　プラスワンピース
i-step 小野田店　看護師（元　山口労災病院　看護師）
演者２：松永 希 先生／関東労災病院　看護部　師長
【スポンサードセッション】大塚製薬

31)【教育企画③】労災病院のコホート研究が明らかにした知見（仮）　12月4日（金）15:15～16:45
座長：宗像正徳（東北労災病院治療就労両立支援センター）
目時弘仁（東北医科薬科大学医学部公衆衛生学教室）
登壇者：西川哲男（横浜労災病院名誉院長）
金野敏（東北労災病院糖尿病内分泌高血圧内科）
豊田章宏（中国労災病院治療就労両立支援センター）
久保田昌詞（大阪労災病院治療就労両立支援センター）
樂木宏実（市立伊丹病院病院事業管理者/大阪大学名誉教授）

32)【共同企画】 日本職業・災害医学会・日本総合病院精神医学会　12月4日（金）13:15～14:45

【選択講習：精神保健】

テーマ：頭部外傷・脳卒中後の精神障害：急性期から社会復帰までの必要な支援を多職種で考える
開会挨拶：三上容司（日本職業・災害医学会理事長）、西村勝治（日本総合病院精神医学会理事長）
企画・司会：
豊田章宏（日本職業・災害医学会、中国労災病院 治療就労両立支援センター所長）
竹内崇（日本総合病院精神医学会治療戦略委員会委員長、東京科学大学）
登壇者１：佐伯覚（産業医科大学リハビリテーション医学講座教授）
登壇者２：吉田賢史（大阪ろうさい病院治療就労両立支援センター、公認心理士）
登壇者３：船山道隆（足利日赤病院、精神保健指定医）
登壇者４：稲次基希（東京科学大学、脳外科医）

33) 日本サイコカーディオロジー学会提供企画

【選択講習：精神保健】

【ねらい】日本サイコカーディオロジー学会は、循環器疾患を有する患者等のメンタルヘルスに関する学術領域に関する研究、知識と技術に関する教育・研修・認定、医療の質の向上、政策提言および普及啓発を行ために設立されました。2024 年の設立ですが、源流を日野原重明先生が 1972 年に日本循環器学会学術集会最終日に開催していた循環器 PSM（Psychosomatic Medicine）の会、そしてそれを引き継ぎ 2003 年に設立した日本循環器心身医学会に持ちます。学会幹部は、それぞれの領域で多彩な足跡を残しており、このたび、日本職業・災害医学会学術集会の機会にその一端を提供いたします。
【日時】2026 年 12 月 4 日（金）15:00～17:00
【司会】　内村直尚（久留米大学理事長・学長、日本睡眠学会理事長）
庵地雄太（国立循環器病研究センター 心不全・移植部門）
【登壇者】（10 分司会＋3 名×30 分[講演 20 分質疑 10 分]＋総合討論 20 分）
勤労者医療におけるサイコカーディオロジーへの期待
井上信孝（神戸海星病院理事長、神戸労災病院元副院長）
リエゾン精神科医が病院長になるということ
西村勝治（東京女子医科大学病院前病院長、日本総合病院精神医学会理事長）
神戸大学医学部附属病院長としての地域医療の取組みについて
平田健一（神戸大学医学部附属病院前病院長、日本循環器学会元代表理事）
※司会・登壇者はすべて日本サイコカーディオロジー学会設立発起人

34) ジョイント企画 2: 第 65 回日本医療・病院管理学会学術総会プレ企画（調整中）
企画：勝山貴美子（日本医療・病院管理学会）2026 年 12 月 6 日（日）9:00～21:30（変則開催）

【ワークショップ】

【学会員のためのワークショップ】倫理コンサルテーション入門　～4 分割表を使ってみる～
開催日　　【調整中】2026年12月3日（木）または4日（金）
開催形式　ミニ講演＋小グループでのワークショップ
参加人数目安　　30名以上
企画・運営 横浜労災病院倫理コンサルテーションチーム（リーダー：周藤　高）
【ねらい】第73回大会の会長講演で、横浜労災病院では病院として臨床倫理に対応できる組織・体制づくりと、他学会での臨床倫理コンサルテーションワークショップの開催をされていることをうかがいました。臨床倫理の概念に必ずしも馴染みのない方もいらっしゃると思いますので、臨床倫理の基本である「4分割表」の作成を体験していただく構成のワークショップをご企画いただきます。
【申し込みサイト】
https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/workshop/index.html

【両立支援関係者のためのシンポジウム＋交流会】　12月5日（土）9:00～10:10
テーマ：健康寿命の延伸に向けた「攻めの予防医療」の推進
趣　意：人生 100 年時代の言葉が定着する中，健やかな人生を歩むためには病気やケガを防ぐことや、病気を早期に発見して適切な治療を受けることが大切である．予防医療とは，病気やケガを未然に防ぐ対策をさす．予防医療の充実によって皆が元気に活躍し，人々の QOL（Quality of life）の向上や医療制度の維持といった効果が期待できる．本シンポジウムでは，少子高齢化が進む現代社会において，予防医療の重要性を再確認する場としたい．
座長：河村孝彦　（中部労災病院治療就労両立支援センター　予防医療部　部長）
開会あいさつ：シンポジウム開催にあたって
　　宗像正徳（東北労災病院治療就労両立支援センター　予防医療部　部長）
シンポジスト
予防医療モデル調査研究の内容や両立支援センターの現状の活動など
　福田里香（九州労災病院治療就労両立支援センター　管理栄養士）
予防医療モデル調査研究の内容や両立支援センターの現状の活動など
　庄垣内　梓（中国労災病院治療就労両立支援センター　保健師）
予防医療モデル調査研究の内容や両立支援センターの現状の活動など
　井谷美幸（大阪労災病院治療就労両立支援センター　保健師）
予防医療モデル調査研究の内容や両立支援センターの現状の活動など
　老谷るり子（関西労災病院治療就労両立支援センター　保健師）
予防医療モデル調査研究の内容や両立支援センターの現状の活動など
　中山卓也（中部労災病院治療就労両立支援センター　理学療法士）
横浜両立支援センターの現状の活動と今後の展開
　今泉朋実（横浜労災病院治療就労両立支援センター　理学療法士）
予防医療モデル調査研究の内容や両立支援センターの現状の活動など
　佐藤さとみ（東京労災病院治療就労両立支援センター　作業療法士）
予防医療モデル調査研究の内容や両立支援センターの現状の活動など
　荒木由美子（関東労災病院治療就労両立支援センター　管理栄養士）
予防医療モデル調査研究の内容や両立支援センターの現状の活動など
　佐藤友則　（東北労災病院治療就労両立支援センター　理学療法士）
※シンポジウム終了後、関係者で「両立支援交流会」を開催します。12 月 5 日（土）10:30～

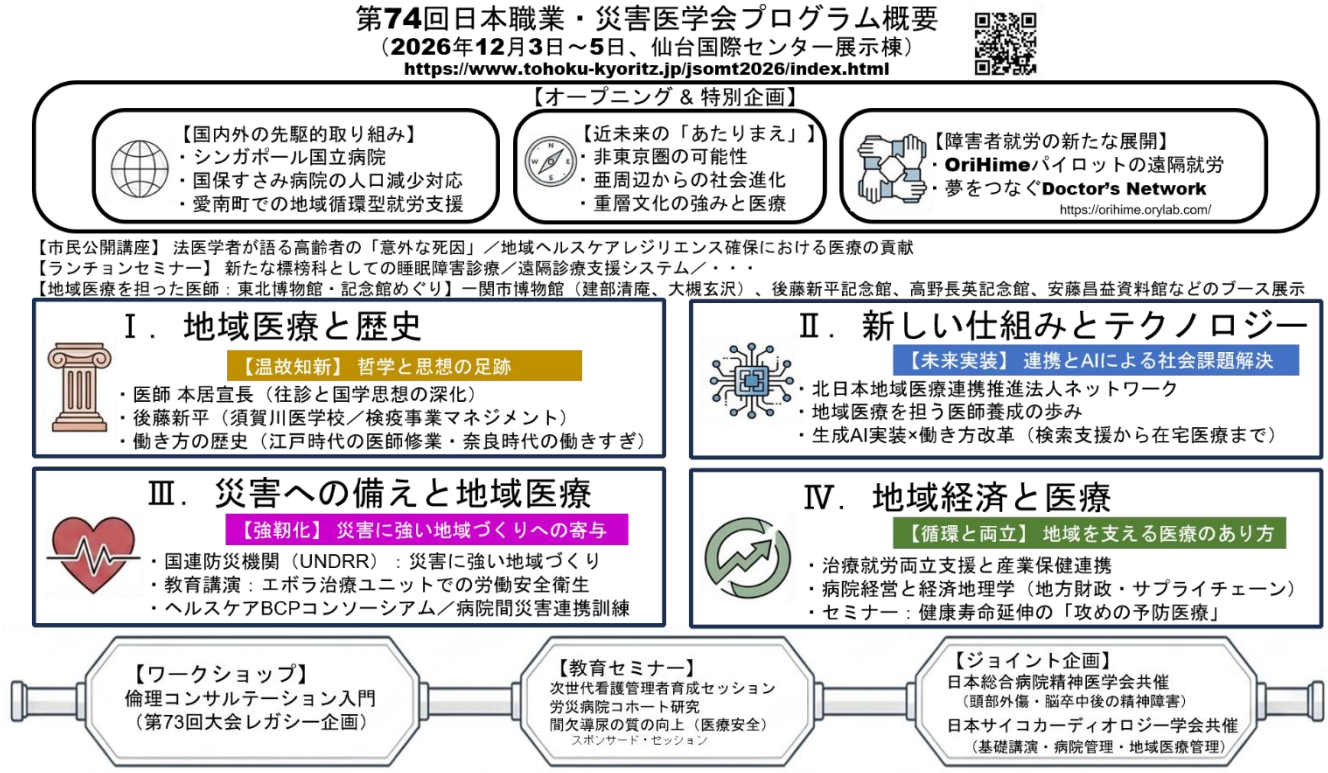
【プレ・セッション（オンライン）】

開催日までに、オンラインでプレセッションを企画・実施しています。学会当日は、各セッションで、そのエッセンスを紹介する予定です。

【第２回プレ・セッション】
テーマ：地域経済循環構造の改善に寄与する医療の在り方（地域経済と医療）
日時・予定（開催方式）：2026年7月7日（火）：13:30～16:00（オンライン）
プログラム
第１部：第 74 回学術大会特別企画へのご紹介とお誘い
ワークショップ：倫理コンサルテーション入門　～4 分割表を使ってみる
頭部外傷・脳卒中後の精神障害：急性期から社会復帰までの必要な支援を多職種で考える
第２部：地域医療を担う病院に関する地方財政と地域経済・経営学
企画・司会：千葉昭彦、庄子元（経済地理学会北東支部 [北海道・東北]）

【第１回プレ・セッション★2 月 19 日開催済★】（学術大会当日のプログラムへ反映予定）
テーマ：災害医療と地域住民とを平時につなぐ試み（災害への備えと地域医療）
プログラム　開会・趣旨説明　伊藤弘人（第 74 回日本職業・災害医学会学術集会会長）
来賓あいさつ　有賀徹（労働者健康安全機構顧問）
植田信策（日本赤十字社医療事業推進本部参事監）
内閣府（防災担当）：調整中
第１部：長野県松本地域での取り組み（15 分）
吉池昭一（相澤病院）：街の病院の大門六番町防災訓練への参加
藤田正人（安曇野赤十字病院救急科部・集中治療部部長）：地区防災訓練への参加
第２部：愛媛県松山地域での取り組み（40 分）
桑原こずえ（愛媛大学レジリエンス学環）：防災アプリを導入した地区防災活動
木村尚人（松山記念病院）：セミナー「災害時、要支援者の避難行動について考える」を開催して
第３部：宮城県仙台地域での取り組み
概要説明：福住町内会での内閣府地区防災計画作成モデル創出事業について
指定発言：内閣府・仙台市医師会ほか（調整中）
フリーディスカッション
指定発言：野口英一（日本病院会救急・災害医療対策委員会委員）
指定発言：佐藤健（東北大学災害科学国際研究所防災実践推進部門防災教育実践学分野教授）
※読売新聞［医療ルネサンス］（No. 8703）で紹介されました（2026 年 3 月 13 日）。
https://www.yomiuri.co.jp/medical/renaissance/20260312-GYT8T00123/

※特別企画の一部は、スポンサード企画になる可能性もございます。個別にお問い合わせください。その他、ご提案・ご要望に柔軟に検討する予定です。



日本職業・災害医学会学術大会の開催概要（東北開催に下線）

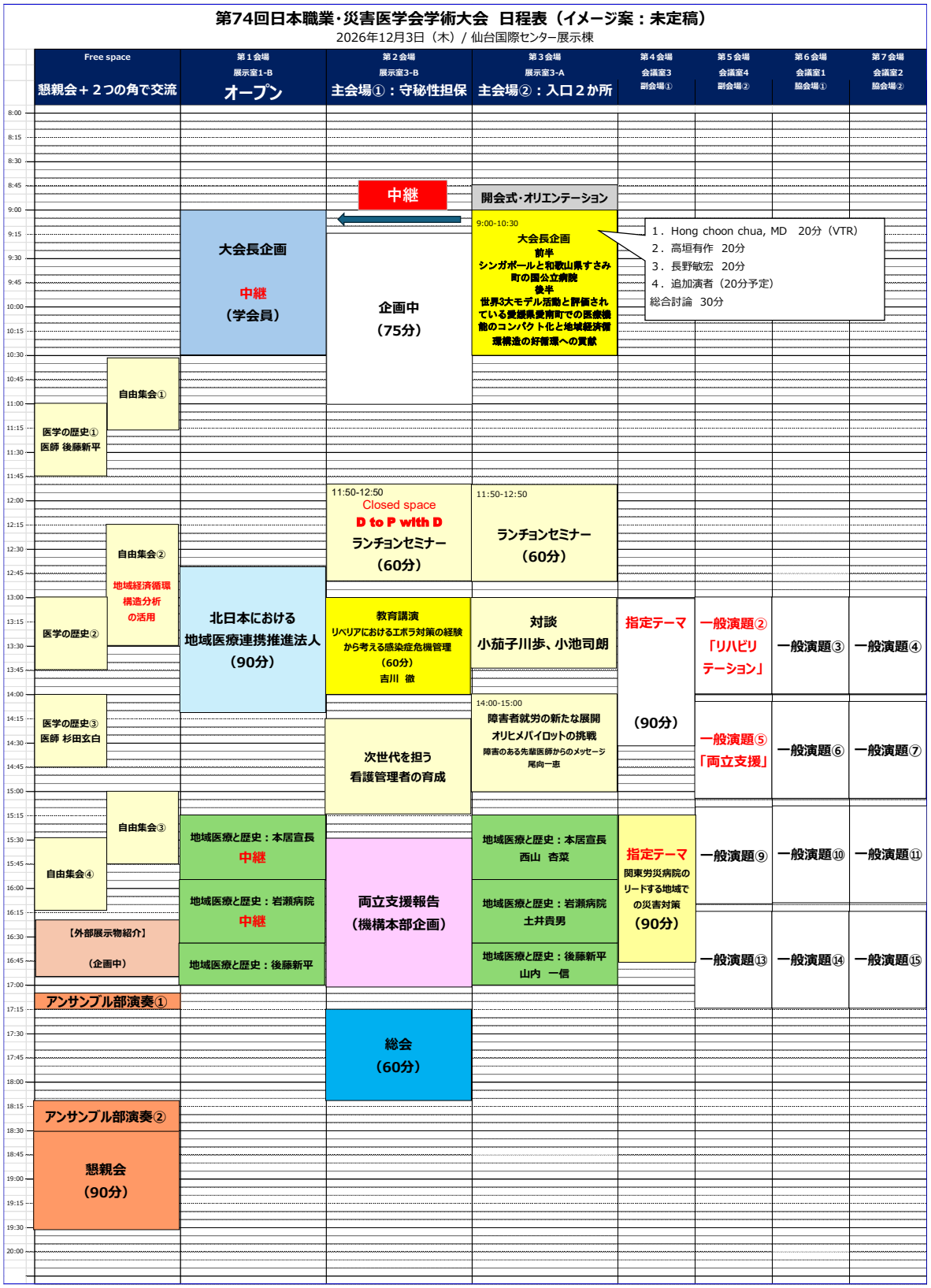
1953 第1回：東京（大槻菊男*　東京大学名誉教授）
1954 第2回：東京（大槻菊男*　東京大学名誉教授）
1955 第3回：東京（大槻菊男*　東京大学名誉教授）
1956 第4回：大阪（大槻菊男*　東京大学名誉教授）
1957 第5回：福岡（大槻菊男*　東京大学名誉教授）
1958 第6回：東京（大西清治　珪肺労災病院長）
1959 第7回：名古屋（宇佐見鍵一　中部労災病院長）
1960 第8回：広島（伊藤肇　中国労災病院長）
1961 第9回：川崎（水町四郎　関東労災病院長）
1962 第10回：仙台（立木豊　東北労災病院長）
1963 第11回：岡山（津田誠次　岡山労災病院長）
1964 第12回：札幌（豊福豊　岩見沢労災病院長）
1965 第13回：堺（小沢凱夫　大阪労災病院長）
1966 第14回：松山（村上徳治　愛媛労災病院長）
1967 第15回：神戸（藤田登　神戸労災病院長）
1968 第16回：東京（近藤駿四郎　東京労災病院長）
1969 第17回：佐世保（岡田実秋　長崎労災病院長）
1970 第18回：青森（副島廉治　青森労災病院長）
1971 第19回：尼崎（長谷川高敏　関西労災病院長）
1972 第20回：浜松（近藤鋭矢　静岡労災病院長）
1973 第21回：川崎（田坂定孝　関東労災病院長）
1974 第22回：北九州（天児民和　九州労災病院長）
1975 第23回：仙台（槇哲夫　東北労災病院長）
1976 第24回：名古屋（山田弘三　中部労災病院長）
1977 第25回：岐阜（村上治朗　岐阜歯科大学教授・村上記念病院長）
1978 第26回：山口（石田一夫　山口労災病院長）
1979 第27回：東京（山本真　北里大学教授）
1980 第28回：札幌（若松不二夫　美唄労災病院長）
1981 第29回：四日市（鶴田登代志　三重大学教授）
1982 第30回：東京（牛尾　耕一　東京労災病院長）
1983 第31回：岡山（西本詮　岡山大学教授）
1984 第32回：東京（石川浩一　関東労災病院長）
1985 第33回：弘前（東野修治　弘前大学教授）
1986 第34回：尼崎（金子仁郎　関西労災病院長）
1987 第35回：東京（高田勗　北里大学教授）
1988 第36回：北九州（鈴木勝己　産業医科大学教授）
1989 第37回：広島（矢村卓三　中国労災病院長）
1990 第38回：東京（田川宏　東京女子医科大学教授）
1991 第39回：神戸（前之園三郎　神戸労災病院長）
1992 第40回：東京（深道義尚　昭和大学教授）
1993第41回：札幌（松野誠夫　美唄労災病院長）
1994 第42回：金沢（山崎安朗　金沢医科大学教授）
1995 第43回：東京（増山善明　東京労災病院長）
1996 第44回：東京（藤巻悦夫　昭和大学教授）

※災害医学会は以降独立開催

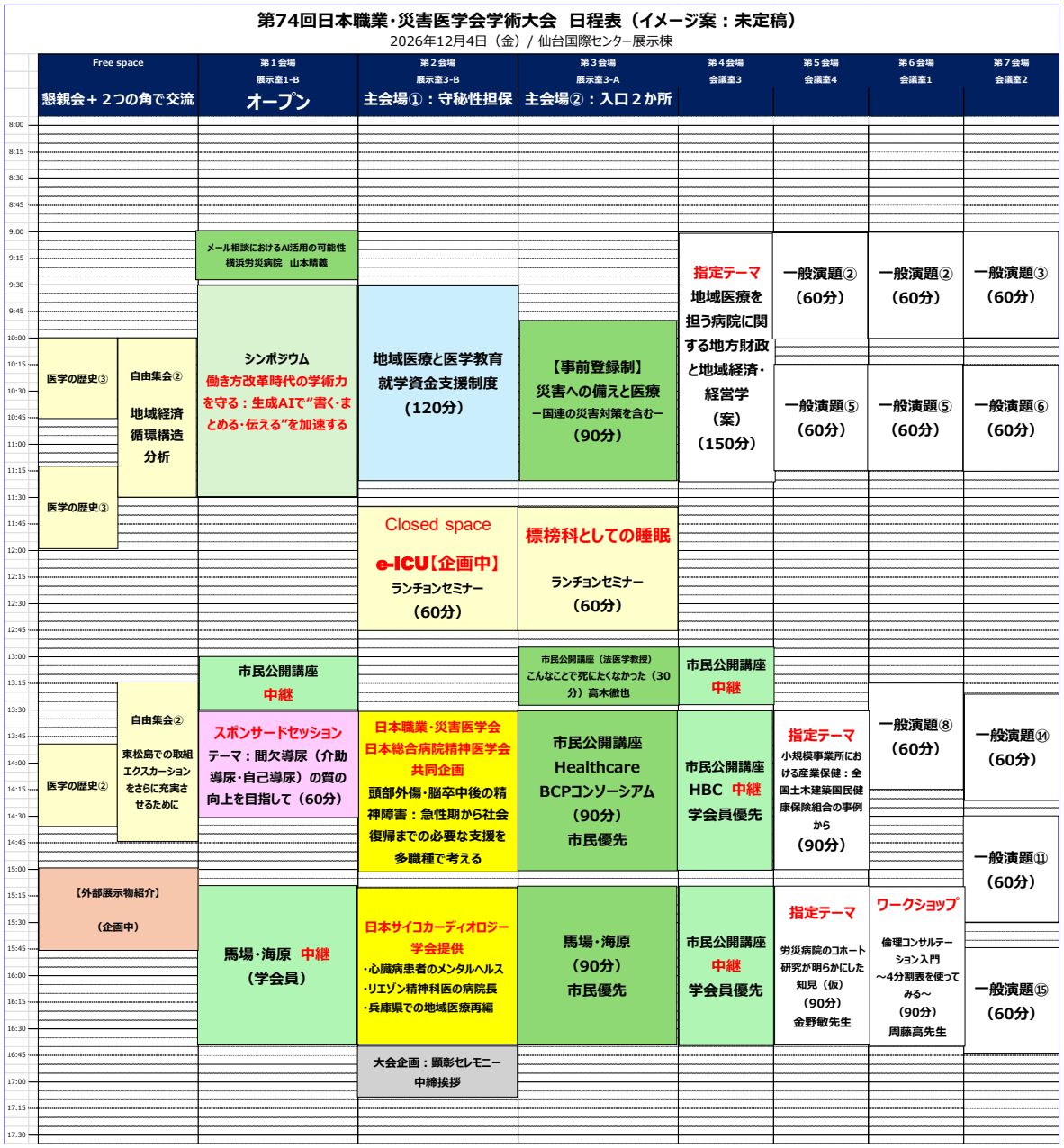
1997 第45回：仙台（吉永馨　東北労災病院長）
1998 第46回：名古屋（三浦隆行　中京大学保健センター長）
1999 第47回：広島（盛生倫夫　中国労災病院長）
2000 第48回：東京（荒記俊一　東京大学教授・労働省産業医学総合研究所所長）
2001 第49回：大阪（鎌田武信　大阪労災病院長）
2002 第50回：北九州（重松昭生　産業医科大学病院病院長）
2003 第51回：横浜（阿部薫　横浜労災病院長）
2004 第52回：岡山（吉良尚平　岡山大学教授）
2005 第53回：大阪（早川徹　関西労災病院長）
2006 第54回：横浜（相澤好治　北里大学教授）
2007 第55回：愛知（堀田饒　中部労災病院長）
2008 第56回：東京（柳澤信夫　関東労災病院長）
2009 第57回：大阪（河野公一　大阪医科大学教授）
2010 第58回：千葉（深尾立　千葉労災病院長）
2011 第59回：東京（小出良平　昭和大学眼科学教授）
2012 第60回：大阪（山田義夫　大阪労災病院院長）
2013 第61回：東京（柳澤裕之　東京慈恵会医科大学環境保健医学講座教授）
2014 第62回：神戸（林紀夫　関西労災病院病院長）
2015 第63回：東京（有賀徹　昭和大学病院病院長）
2016 第64回：仙台（佐藤克巳　東北労災病院院長）
2017 第65回：北九州（尾辻豊　産業医科大学第2内科学）
2018 第66回：和歌山（南條輝志男 和歌山ろうさい病院院長）
2019 第67回：東京（谷川武　順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座教授）
2020 第68回：静岡（鈴木茂彦　浜松ろうさい病院院長）
2021 第69回：東京（杉山政則　東京労災病院院長）
2022 第70回：長野（野見山哲生　信州大学医学部衛生学公衆衛生学教室教授）
2023 第71回：福岡（三浦裕正　九州労災病院院長）
2024 第72回：東京（恩田秀寿 昭和大学医学部眼科学講座教授）
2025 第73回：横浜（三上容司　横浜労災病院病院長）
2026 第74回：仙台（伊藤弘人 東北医科薬科大学教授）

*大槻菊男（1887～1977）仙台生れ。昭和天皇侍医、東京大学外科学第一講座教授、虎の門病院初代院長

【日程表案　12月3日（木）】　予定



【日程表案　12月4日（金）】　予定



【日程表案　12月5日（土）】　予定（一部12月6日）

１）第75回日本医療・病院管理学会学術総会プレ企画（変則的に12月6日開催）

２）エクスカーション
仙台駅東口発（8:15）→東松島市震災復興伝承館→東松島市保健センター→松島にて昼食・自由散策（※下車可能）→松島発（14:15※乗車可能）→震災後の復興住宅エリアを車窓見学→末の松山（百人一首等で詠まれた歌枕）→多賀城駅（※下車可能）→国府多賀城駅（※下車可能）→仙台駅着16:00

【収支予算案】

収入の部

項目	単価（円）	数量（単位）	金額（円）
1．参加費収入			
1）医師（会員）	10,000	150	1,500,000
2）医師（非会員）	10,000	100	1,000,000
3）医師以外（会員）	5,000	200	1,000,000
4）医師以外（非会員）	5,000	200	1,000,000
5）会員懇親会	5,000	100	500,000
小計	―	―	**5,000,000**
2．寄付金	2,000,000	1	**2,000,000**
3．共催セミナー			
ランチョンセミナー	1,320,000	6	7,920,000
スポンサードセミナー	1,100,000	2	2,200,000
小計	―	―	**10,120,000**
4．広告収入			
1）表 4	220,000	1	220,000
2）表 2	198,000	1	198,000
3）表 3	165,000	1	165,000
4）後付 1 頁	110,000	5	330,000
5）後付 1/2 頁	66,000	10	660,000
6）ホームページバナー	110,000	2	220,000
小計	―	―	**2,013,000**
3．出展収入			
1）機器展示	220,000	10	2,200,000
2）書籍展示	33,000	1	33,000
小計	―	―	**2,233,000**
4．本部助成金	6,500,000	1	**6,500,000**
合計			**27,866,000**

支出の部

項目	単価（円）	数量（単位）	金額（円）
1.　会場準備経費・事務局経費			
制作費（告知ポスター、HP 作成等）	1,500,000	一式	1,500,000
事前登録業務費	1,100,000	一式	1,100,000
抄録集作成費	2,200,000	一式	2,200,000
事務局費用	2,000,000	一式	2,000,000
小計	―	―	**6,800,000**
2.　当日運営経費			
会場使用料	3,800,000	一式	3,800,000
付帯設備料	1,600,000	一式	1,600,000
映像機材費	1,500,000	一式	1,500,000
運営要員関係費	2,100,000	一式	2,100,000
招聘者関係費	1,500,000	一式	1,500,000
輸送・エクスカーション関係費	1,100,000	一式	1,100,000
懇親会・会合・行催事関係費	9000,000	一式	9000,000
小計	―	―	**20,600,000**
3.　事後処理費	466,000	一式	466,000
合計			**27,866,000**

＜寄付金募集要項＞

１．寄附金の目的と使途
第 74 回日本職業・災害医学会学術大会準備、並びに運営に関する費用に充当します。

２．募金の名称
第 74 回日本職業・災害医学会学術大会寄附金

３．募金の目標額
2,000,000 円

４．募金の期間
2025 年 8 月 1 日～2026 年 11 月 30 日（予定）

５．寄附金申込方法（2027年1月オープン）
下記サイトより必要事項をご記入の上、お申込みください。
https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/sponsorship/

６．寄附金振込方法
お申込み後、期日までに下記指定口座にお振込みください。
＜振込先＞
銀 行 名：七十七銀行
支 店 名：本店営業部
口座種別：普通
口座番号：５１６２５０３
口座名義：第74回日本職業・災害医学会　学術大会　会長　伊藤弘人
口座名義（ｶﾅ）：ﾀﾞｲ74ｶｲﾆﾎﾝｼｮｸｷﾞｮｳ.ｻｲｶﾞｲｶﾞｸｶｲｶﾞｸｼﾞｭﾂﾀｲｶｲ ｶｲﾁｮｳ ｲﾄｳﾋﾛﾄ

７．税法上の扱い
免税措置は、特にありません。

８．寄附金募集の責任者
氏 名：伊藤　弘人
（東北医科薬科大学 医学部 医療管理学教室 教授）

９．寄附金募集の連絡先
第 74 回日本職業・災害医学会学術大会 運営事務局宛
株式会社 東北共立内
住　所：〒982-0001　宮城県仙台市太白区八本松2－10－11
TEL：022-246-2591　FAX：022-399-7749
E-mail：jsomt74@tohoku-kyoritz.co.jp

10. 透明性ガイドラインに関する同意について
本学会では、本学術集会（寄附金）に関して、各社の「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドラインに関する指針」に基づいて情報公開することに同意いたします。なお、別途同意書への押印・サインは控えさせていただきますので、予めご了承ください。

11. 取消
寄付お申込後は、事務局が不可抗力と認めた事項以外での取消はできません。
したがって、寄付金の返却もいたしかねますので、ご了承ください。

＜共催セミナー募集要項＞

会　議　開　催　概　要

１．会議の名称
第 74 回日本職業・災害医学会学術大会
（ホームページ：https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/　）

２．開催時期
2026 年 12 月 2 日（木）～ 5 日（日）

３．会場
仙台国際センター展示棟
〒980-0856仙台市青葉区青葉山無番地
TEL：022-246-2591
URL：https://www.aobayama.jp/

４．会長
伊藤　弘人
（東北医科薬科大学 医学部 医療管理学教室 教授）

５．参加者数
650 名（予定）

共催セミナー運営要項

１．開催形式
第 74 回日本職業・災害医学会学術大会と貴社との共催
チラシ等への記載方法
共催：第 74 回日本職業・災害医学会学術大会
〇〇〇〇株式会社
（注）複数社にてご共催の場合は、
共催：第 74 回日本職業・災害医学会学術大会
〇〇〇〇株式会社/□□□□株式会社

２．プログラム編成
演者、座長、テーマ等につきましては、事前にご相談ください。
最終決定に関しては会長に一任とさせていただきます。

３．演者および座長への依頼状
演者・座長の先生へは、貴社よりご依頼の上、正式な承諾書を入手いただき、学会事務局宛にお知らせください。また、学会抄録集に演者・座長の先生お名前・御所属、講演タイトルの掲載を予定しておりますので、2026 年 7 月 31 日までに学会運営事務局宛にお知らせください。

４．共催関係費用負担について

＜共催費用に含まれるもの＞

・講演会場費/付帯設備費（机、椅子、ステージ等）
・音響関係費/照明関係費
・会場機材費（本大会で使用している設置済み機材）
・PC 発表用機材（スクリーン、プロジェクター、講演台上モニター１台）
・レーザーポインター
・マイク（座長席/演者席）

＜共催費用に含まれないもの＞

上記以外の経費は別途共催会社様にてご負担をお願いいたします。
（例）控室室料、控室機材、共催セミナー参加者飲食費（弁当・お茶等）、講師等飲食費、講師旅費・謝金・宿泊費、看板装飾、運営人件費、印刷物制作費等

５．日程・会場決定について

募集にあたっては、ご希望の日程、会場が重なる場合がございますので、必ず、第 2 希望、第 3 希望をご記入ください。会場の決定については、申込の開催希望欄を参考にし、協議させていただきますが、最終決定は会長に一任とさせていただきます。

６．寄附金申込方法

下記サイトより必要事項をご記入の上、お申込みください。
https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/sponsorship/

７．申込締切

2026 年 9 月 30 日（水）

８．共催費用のご入金

セミナー枠決定後に請求書をお送りいたします。請求書発行後一か月以内に、下記指定口座にお振り込みをお願いいたします。
期日までにお振込みが難しい場合は別途ご連絡をお願いいたします。
（注）共催セミナー手配関係のご案内（アンケート）は大会一か月前頃に送付予定です。

＜振込先＞

＜振込先＞

銀行名：七十七銀行
支店名：本店営業部
口座種別：普通
口座番号：５１６２５０３
口座名義：第74回日本職業・災害医学会　学術大会　会長　伊藤弘人
口座名義（ｶﾅ）：ﾀﾞｲ74ｶｲﾆﾎﾝｼｮｸｷﾞｮｳ.ｻｲｶﾞｲｲｶﾞｸｶｲｶﾞｸｼﾞｭﾂﾀｲｶｲ ｶｲﾁｮｳ ｲﾄｳﾋﾛﾄ

９．共催費一覧

開催日	セッション名	席数(予定)	金額(税込)	募集枠数
12 月 3 日（木）	ランチョンセミナーA	約 150 席	1,320,000円	3
	スポンサードセミナーA	約 150 席	1,100,000円	1
12 月 4 日（金）	ランチョンセミナーB	約 150 席	1,320,000円	3
	スポンサードセミナーB	約 150 席	1,100,000円	1

注）収容人数と共催セミナーの弁当の発注個数は異なりますので別途、共催者の方と相談させていただきます。

10. プログラム・抄録集

第 74 回日本職業・災害医学会学術大会のプログラム・抄録集を 1 部無償で提供させていただきます。完成は 2026 年 11 月中旬頃を予定しております。

11. 透明性ガイドラインに関する同意について

本学会では、本学術集会共催セミナー等に要した費用　（共催費、料飲費等）に関して、各社の「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドラインに関する指針」に基づいて情報公開することに同意いたします。

なお、別途同意書への押印・サインは控えさせていただきますので、予めご了承ください。

12. 取消

共催セミナーお申込後は、事務局が不可抗力と認めた事項以外での取消はできません。したがって協賛金の返却もいたしかねますので、ご了承ください。

13. 問い合わせ先

第 74 回日本職業・災害医学会学術大会 運営事務局宛
株式会社 東北共立内
住　所：〒982-0001　宮城県仙台市太白区八本松2 - 10 - 11
TEL：022-246-2591　　FAX：022-399-7749
E-mail：jsomt74@tohoku-kyoritz.co.jp

＜附設展示会募集要項＞

１． 会議の名称
第 74 回日本職業・災害医学会学術大会
（ホームページ：https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/ ）

２． 会期
2026 年12 月3 日（土）～ 5 日（日）

３． 会長
伊藤 弘人
（東北医科薬科大学 医学部 医療管理学教室 教授）

４． 会場
仙台国際センター展示棟
〒980-0856仙台市青葉区青葉山無番地 TEL：022-265-2211
URL：https://www.aobayama.jp/

５． 展示会場
同上

６．出展対象
医療機器、 検査機器、 医薬品、 医療情報機器、 システム他

７． 出展料金

種類	単位	小間サイズ	金額(税込)
スペース小間	1 小間	W1,800㎜×D900㎜	220,000 円
書籍展示	1 本	机 1 本（W1,800㎜×D600㎜）	33,000 円

注）上記金額は展示スペースのみの料金です。バックパネル、サイドパネル、社名板等は含まれておりません。後日パッケージブース（有料）をご案内させていただきます。
また、特別電気工事費、電気使用料は別途ご請求となります。

８． 募集小間数：
スペース小間／ 2 小間、書籍展示／机2 本（ 予定）

９． 出展物
出展対象に記載された範囲のもの、および当方の認めたもの。

10. 外国出展物
展示場は保税展示場には致しません。 海外からの出展物は、 国内貨物として出展するか、 またはATAカルネの制度をご利用ください。

11. 出展者へのご案内
出展者説明会は行いません。開催一か月程前に詳細を別途連絡予定です。

12. 本会議への参加資格について
出展者の皆様に対しては本大会の講演会場および関連プログラムへの参加資格はございません。 参加を希望される場合は別途参加申込を行って下さい。 展示会場への出展者の入場制限はございません。

13. 会場の管理
会場および出展物の保全については、 最善の保護と管理にあたりますが、天災その他の不可抗力による事故、 盗難、紛失、および小間内における人的被害の発生については責任を負いません。

14. 会期・ 開場時間・ 開催場所の変更
やむを得ない事情により会期・ 開場時間・ 開催場所を変更する場合があります。この変更を理由として出展申込を取り消すことはできません。 また、これによって生じた損害は補償しません。

15. プログラム・ 抄録集について
第74回日本職業・ 災害医学会学術大会のプログラム・ 抄録集を 1 部無償で提供させていただきます。完成は 2026 年11月初旬頃を予定しております。

16. 展示会日程（予定）
（１） 搬入設営
12月2日（前日） を予定しておりますが会期約一か月前に別途ご連絡予定です。
（２） 展示
12月3日9時00 分～12月4日 15時00分まで（予定）
（３） 搬出
12月5日 15時00 分～16時00分予定（ 別途ご案内予定）
（４） 搬入・ 搬出経路
別途、大会前にご連絡いたします。
（５） 小間配置
配置に関して は会長に一任といたします。

17. 問い合わせ先
第 74 回日本職業・災害医学会学術大会 運営事務局宛
株式会社 東北共立内
住 所：〒982-0001 宮城県仙台市太白区八本松2 - 10 - 11
TEL：022-246-2591 FAX：022-399-7749
E-mail：jsomt74@tohoku-kyoritz.co.jp

18. 申込方法
下記サイトより必要事項をご記入の上、お申込みください。
https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/sponsorship/

お申し込み多数の場合、採用企業の決定につきましては会長一任とさせていただきますのであらかじめご了承ください。

19. 申込締切日
2026 年9月 30 日までにお申込ください。

20. 出展費用のご入金

請求書発行後一か月以内に、下記指定口座にお振り込みをお願いいたします。
期日までにお振込みが難しい場合は別途ご連絡をお願いいたします。

＜振込先＞

銀 行 名：七十七銀行
支 店 名：本店営業部
口座種別：普通
口座番号：５１６２５０３
口座名義：第74回日本職業・災害医学会　学術大会　会長　伊藤弘人
口座名義（ｶﾅ）：ﾀﾞｲ74ｶｲﾆﾎﾝｼｮｸｷﾞｮｳ.ｻｲｶﾞｲｲｶﾞｸｶｲｶﾞｸｼﾞｭﾂﾀｲｶｲ ｶｲﾁｮｳ ｲﾄｳﾋﾛﾄ

21. 取消

出展お申込後は、事務局が不可抗力と認めた事項以外でのお取消はできません。
キャンセルの場合は、100％キャンセル料が発生いたします。出展料金の返却もいたしかねますので、予めご了承ください。

＜広告募集要項＞

(A) プログラム・抄録集　広告募集要項

１．広告掲載媒体
日本職業・災害医学会会誌　第 74 巻　臨時増刊号

２．配布対象：
学会員、関係の対象参加者および関係者（医師、メディカルスタッフ等）

３．配布部数（判型）
約 2,500 部（A4 判プログラム・抄録集）

４．媒体制作費
2,200,000 円（税込）

５．広告料総額
1,793,000 円（税込）

６．募集数計：

広告掲載料金

No.	仕様	料金（円、消費税込み）
1	広告Ａ4 版大会抄録集１ページサイズ（カラー） （掲載頁は表４）　募集口数（1 口）	220,000 円
2	広告Ａ4 版大会抄録集１ページサイズ（１色） （掲載頁は表２）　募集口数（1 口）	198,000 円
3	広告Ａ4 版大会抄録集１ページサイズ（１色） （掲載頁は表３）　募集口数（1 口）	165,000 円
4	広告Ａ4 版大会抄録集 1 ページサイズ（１色） （掲載後付）　　募集口数（5 口）	110,000 円
5	広告Ａ4 版大会抄録集１/2 ページサイズ（１色） （掲載後付）　　募集口数（10 口）	66,000 円

注）掲載頁の表２、表３、表４に関してはお申込多数の場合お申込の先着順とさせていただきますのでご了承ください。後付の場合、掲載場所は主催者に一任とさせていただきます。

８．広告申込締切
2026 年９月 30 日

９．広告申込方法
下記サイトより必要事項をご記入の上、お申込みください。
https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/sponsorship/

10. 版下送付締切および送付先

（1）版下送付締切：2026 年9 月30 日

（2）版下送付先：

住所：〒982-0001　宮城県仙台市太白区八本松2 - 10 - 11
株式会社東北共立内
第 74 回日本職業・災害医学会学術大会 運営事務局宛
TEL：022-246-2591　 FAX：022-399-7749
E-mail：jsomt74@tohoku-kyoritz.co.jp
注）版下は完全版下（電子データ）でご送付ください。

11. 広告掲載費用のご入金

請求書発行後一か月以内に、下記指定口座にお振り込みをお願いいたします。
期日までにお振込みが難しい場合は別途ご連絡をお願いいたします。

＜振込先＞
銀 行 名：七十七銀行
支 店 名：本店営業部
口座種別：普通
口座番号：５１６２５０３
口座名義：第74回日本職業・災害医学会　学術大会　会長　伊藤弘人
口座名義（ｶﾅ）：ﾀﾞｲ74ｶｲﾆﾎﾝｼｮｸｷﾞｮｳ.ｻｲｶﾞｲｶﾞｸｶｲｶﾞｸｼﾞｭﾂﾀｲｶｲ ｶｲﾁｮｳ ｲﾄｳﾋﾛﾄ

12. 発行予定日

2026 年11 月上旬　※広告掲載企業様には 1 冊進呈いたします。

13. 取消

広告お申込後は、事務局が不可抗力と認めた事項以外での取消はできません。キャンセルの場合は、100％キャンセル料が発生いたします。広告掲載料金の返却もいたしかねますので、予めご了承ください。

(B) ホームページバナー　広告募集要項

14. バナー掲載場所

第 74 回日本職業・災害医学会学術大会 ホームページ内
https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/index.html

15. 掲載期間

2025 年8 月～2026 年12 月末（予定）
注）　ホームページ公開後は、掲載データが到着次第、随時掲載いたします。

16. 掲載料

110,000 円（税込）

17. 募集数

2 口

18. 申込方法
下記サイトより必要事項をご記入の上、お申込みください。
hhttps://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/sponsorship/

お申し込み後に、掲載用のバナーデータ、およびリンク先の URL をメールにてお送りください。

19. バナーの設置位置
トップページ内にて、主催者一任とさせていただきます。

20. データ提出方法
（1）データサイズ
横：200pix　縦：50pix
（2）画像形式
jpeg、gif、png のいずれかで下記運営事務局 E-mail（jsomt74@tohoku-kyoritz.co.jp）宛に送付ください。
※バナーデータはご提供ください。原稿の作成・修正は別途料金を申し受けます。

21. バナー掲載費用のご入金
請求書発行後一か月以内に、下記指定口座にお振り込みをお願いいたします。
期日までにお振込みが難しい場合は別途ご連絡をお願いいたします。

＜振込先＞
銀 行 名：七十七銀行
支 店 名：本店営業部
口座種別：普通
口座番号：５１６２５０３
口座名義：第74回日本職業・災害医学会　学術大会　会長　伊藤弘人
口座名義（ｶﾅ）：ﾀﾞｲ74ｶｲﾆﾎﾝｼｮｸｷﾞｮｳ.ｻｲｶﾞｲｶﾞｸｶｲｶﾞｸｼﾞｭﾂﾀｲｶｲ ｶｲﾁｮｳ ｲﾄｳﾋﾛﾄ

22. 問い合わせ・バナーデータ送付先

第 74 回日本職業・災害医学会学術大会 運営事務局宛
株式会社東北共立内
住　所：〒982-0001　宮城県仙台市太白区八本松2－10－11
TEL：03-5520-8821　　FAX：03-5520-8820
E-mail：jsomt74@tohoku-kyoritz.co.jp

23. 取消
広告お申込後は、事務局が不可抗力と認めた事項以外での取消はできません。キャンセルの場合は、100％キャンセル料が発生いたします。広告掲載料金の返却もいたしかねますので、予めご了承ください。

＜各種申込方法＞

下記サイトより必要事項をご記入の上、お申込みください。

https://www.tohoku-kyoritz.jp/jsomt2026/sponsorship/

注）後日、別枠の協賛をお申込みされる場合（例：最初に展示を申し込まれて、後日、広告掲載を申し込まれたい）は、同様に上記サイトよりお申し込みください。

【問い合わせ】

第 74 回日本職業・災害医学会学術大会 運営事務局宛

株式会社 東北共立内

住　所：〒982-0001　宮城県仙台市太白区八本松2－10－11

TEL：022-246-2591　　FAX：022-399-7749

E-mail：jsomt74@tohoku-kyoritz.co.jp